

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

専門研修プログラム 募集案内



公立大学法人

福島県立医科大学附属病院

Fukushima Medical University Hospital

<https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/>



専門医を目指す方へ



専門医研修管理委員会委員長
(福島県立医科大学附属病院長)

藤森 敬也

当院の専門医研修においては、19ある全ての基本領域で基幹施設としてプログラムを運用しており、全ての基本領域で専門医の資格を取得することが可能です。また、各プログラムでは、当院のほか、県内外の連携施設等と密に連携して研修を行うため、指導体制や専門医取得に必要な症例数の面でも充実した研修環境が整っており、基本領域に加えてサブスペシャリティ領域においても、各人にとって最適な研修計画を策定し、迅速に専門医資格が取得できるよう配慮しています。

さらに、専攻医は、大学院・大学院研究生の併願が可能のため、医師として勤務しながら、多くの専攻医が医学博士号(PhD)を並行して取得しています。

当院には、最適な研修プログラム、充実した施設・研修環境、優れた研究環境、優しく親身にサポートしてくれる先輩達が揃っており、自身の望むキャリアパスが創造できます。出身大学に関係なく、個々の目標達成に向けて、スタッフ一同が全面的に支援しますので、多くの方に安心して当院での専門医研修を選択していただき、専門研修プログラムにより目標とする専門医資格を着実に取得され、活躍されることを期待しています。

病院案内

病院の特徴

健康を支え、心温まる医療を実践

当院は、医科大学附属の総合病院として、39診療科・778床の施設を有し、先進医療の充実や診療体制の整備に努めております。こうした中、1日の平均入院患者数580名(令和7年度)、1日の平均外来患者数は、1,508名(令和7年度・入院中外来受診者を除く)を数え、県民の皆さまに広く利用されております。附属病院ではこれからも地域を照らし、多様化する医療に対する県民の皆さまの期待に応えてまいります。

診療科目

循環器内科／血液内科／消化器内科／リウマチ・膠原病内科／腎臓・高血圧内科／糖尿病・内分泌代謝内科／脳神経内科／呼吸器内科／漢方内科／腫瘍内科／総合内科／呼吸器外科／消化管外科／肝胆膵・移植外科／乳腺外科／小児外科／甲状腺・内分泌内科／甲状腺・内分泌外科／心臓血管外科／脳神経外科／整形外科／形成外科／産科、婦人科／小児科／小児腫瘍内科／眼科／皮膚科／泌尿器科／副腎内分泌外科／耳鼻咽喉科／頭頸部外科／心身医療科／放射線科／放射線治療科／核医学科／麻酔・疼痛緩和科／病理診断科／歯科口腔外科／救急科／リハビリテーション科

【常勤医師数】419名(令和8年4月1日現在) 【1日平均入院患者数】580件(令和7年度) 【1日平均外来患者数】1,508件(令和7年度)

【救急車搬入患者数】2,345名(令和7年度) 【救急外来患者数】7,500件(令和7年度) 【手術件数】7,554件(令和7年度)

専門研修プログラムの特徴

- 1 19ある全ての基本領域で基幹施設として専門研修プログラムを運用しています。
- 2 希望する専門医資格を取得できるよう、基本領域の各プログラム責任者等と相談の上、最適な研修計画に基づき研修を行います。
- 3 専門医資格取得に必要な症例数等を確保するため、当院と連携施設で研修を行います。連携施設は原則各学会の認定施設です。
- 4 大学院・大学院研究生の併願が可能であるため、医師として働きながら、大学院教育を受けることで、より充実した専門医研修が可能です。多くの専攻医が医学博士号(PhD)を並行して取得しています。
- 5 医師のキャリアを見据えた幅広い一貫した教育を支援していきます。

腫瘍免疫と低侵襲手術

呼吸器外科では胸部の悪性腫瘍(肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍など)に対する治療を主に行っています。手術はもちろんですが、薬物療法や基礎的な研究も積極的に行っています。当科では、もともと腫瘍免疫に関する基礎研究が行われています。最近、肺がんのみならず様々な癌腫の薬物療法の新たな柱として使用されている免疫チェックポイント阻害薬による治療や研究も積極的に行っています(図1)。当科も参加した国際共同治験の結果から、進行肺がんに対する術前治療として、従来の薬物療法に免疫チェックポイント阻害薬を追加した薬物療法後に手術を行うという最新の治療を積極的に進めています(図2)。

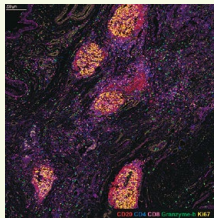
手術に関して、当科では低侵襲な手術を目指しており、当科で行われている約8割の手術が鏡視下で、特にロボット支援下手術(いわゆるダビンチによる手術)です。また、従来、胸骨正中切開で行っていた縦隔腫瘍の手術でも、周囲臓器の合併切除を要する拡大手術を除いてほぼ全例でロボットを用いて行えるようになり、患者さんの術後の負担が軽減されています(図3)。

このように当科では、胸部の悪性腫瘍に対する治療として最新のロボットを使用した手術から最先端の薬物療法まで幅広く経験を積み、それらの経験から生じたクリニカルエーションをもとに、腫瘍免疫を中心とした研究が可能です。みなさん、よかったら、私達とともに胸部悪性腫瘍の最新の治療や研究に携わり、福島から世界に発信していきませんか？

呼吸器外科学講座 准教授 岡部 直行

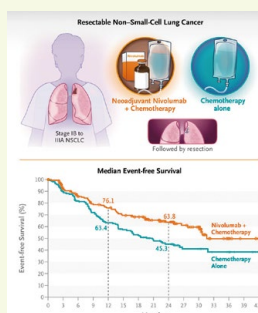
【図1】最新鋭のイメージングマスマイトメトリーである Hyperion XTiを用いた免疫微小環境解析の一例

①Hyperion XTiについて:従来の蛍光免疫染色では数項目の評価が限界であったが、金属標識抗体を使用することで、40項目以上のタンパク質やRNAマーカを同時に可視化することが可能となった最新鋭のイメージングマスマイトメトリー装置。組織微小環境を高精度に空間解析できる。



②画像について:3次元リンパ様構造(TLS)発現肺癌における腫瘍免疫微小環境の免疫担当細胞ならびにGranzyme-β発現の様子。CD20やCD8陽性T細胞の集簇、細胞分裂の活性化、細胞障害性酵素の発現がみられ、抗腫瘍的な免疫微小環境の構築がみられる。

【図1】



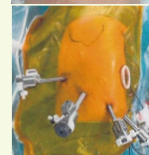
【図2】

【図2】当科も参加した国際共同治験(CheckMate 816 Clinical Trials)

この試験の結果から、進行肺がんに対して術前に従来の化学療法に免疫チェックポイント阻害薬を上乗せすることが標準治療の一つとなり当科でも現在積極的に行われています。

【図3】

a) 肺がんに対するロボット手術
b) 縦隔腫瘍に対するロボット手術



【図3a】



【図3b】



【図1】当科での骨髄採取の様子



【図2】当科でのカンファレンスの様子

血液疾患に対する先進的診療

近年、血液疾患の診療は遺伝子解析技術の進歩と新規治療薬の開発により大きく発展しています。急性白血病や骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍では、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異解析や染色体異常の評価に基づき、疾患の生物学的特徴を踏まえた個別化治療の実践が可能になっております。当院では造血器腫瘍パネル検査を中心とした分子遺伝学的検査を積極的に活用し、より精度の高い診断と治療戦略の立案を行っています。

また、造血幹細胞移植は再発・難治性血液疾患に対する根治的治療として重要な役割を担っており、当院では福島県の血液診療の拠点病院として同種移植・自家移植の双方を実施しています。移植前の適応評価から移植後の合併症管理まで、多職種と連携しながら総合的な医療を提供しています。さらに近年は、CAR-T療法も導入され、従来の治療では治癒が難しかった患者さんにも新たな治療の可能性が広がっています。

加えて、当院では国内外の多施設共同研究や臨床試験にも積極的に参加し、最新の治療を患者さんに提供するとともに、血液疾患の新たな治療法の確立にも取り組んでいます。高度医療と研究が一体となった環境の中で、若手医師も最先端の血液診療を経験することができます。今後も地域医療機関と連携しながら、福島県全域の患者さんに質の高い血液医療を提供していきたいと考えています。

血液内科学講座 講師 小山 大輔

Message

失われた笑顔求めて



生まれつき、形が違う。
事故で、顔や手を失う。
病気によって、自分らしさを取り戻せなくなる。
形成外科医は、そうした「形」と「機能」に向かいます。

全国の臨床研修医のみなさん、日々の研修大変お疲れ様です。

形成外科というと美容外科を思い浮かべる方も多いかもかもしれません。しかし実際には、外傷、先天異常、腫瘍切除後再建、創傷治療など、全身を対象に“人生を再建する”外科です。

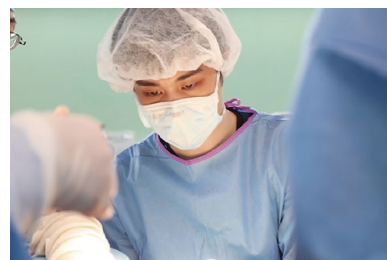
形成外科は、“完成”のない外科です。

常により良い形態、より良い機能、より良い「その人らしさ」を追い求め続ける外科です。

当院での研修医時代、形成外科医の指導のもと顔面外傷の処置に関わったことがありました。「傷を閉じる」だけではなく、その後の患者さんの人生や自信

にまで関わるのが形成外科なのだと感じ、強く心を惹かれました。

決して簡単な道ではありませんが、患者さんの「失われた笑顔」を取り戻すため、一歩ずつ「グレイテスト形成外科医への道」を福島で歩んでいきたいと考えています。



当院では、地方大学ならではの環境で幅広い症例を経験することができます。また、首都圏や東北地方での学会発表・研究活動にも積極的に参加でき、全国レベルの学びに触れられる環境があります。

みなさんもぜひ、福島で充実した研修生活を送ってみませんか。

専攻医1年次(形成外科) 阿部 将貴

福島県立医科大学 大学院

大学院博士課程アドミッション・ポリシー

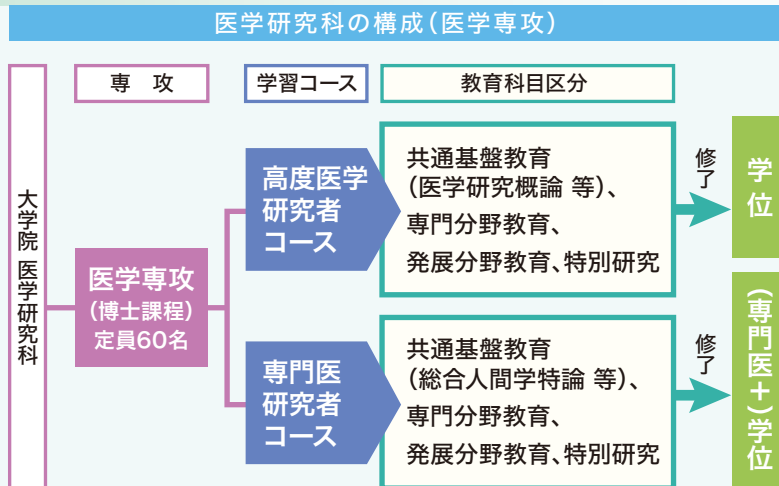
本学大学院医学研究科では、高い倫理観と豊かな人間性を備え、共に新しい医学を創造し、社会に貢献する次のような学生を求めています。

- ① 医学・医療に関する高度な専門的知識・技術の修得を目指す人
- ② 新たな分野に踏み込み、先駆的な研究活動を志す人
- ③ 地域の医学・医療水準の向上を目指し、指導的な役割を担おうとする人
- ④ 大学・研究機関の指導者、研究者として活躍する意欲を持つ人
- ⑤ 医学・医療の分野で、世界に飛躍しようとする熱意を持つ人

大学院医学研究科の概要

本学大学院医学研究科は、医学・医療の発展に自立して寄与することができる研究者及び専門職者を育成するとともに、新しい医学の創造を行うことを目的とします。

また、先進的で高度な医療を実践できる医療人やこれらの医学・医療をリードする研究者を養成・確保しながら、優れた研究成果を県民医療に還元し、本県医療水準の向上と県民の健康増進に一層寄与できるよう、基礎医学と臨床医学の壁を越えた総合的・学際的な教育研究を推進しています。



医学専攻(博士課程)の概要 修業年数4年

本学医学専攻(博士課程)では、医学部を卒業した学生を中心とし、医学部以外からの学生にも広く門戸を開放して医学を究めることを目的とすることから、専攻の名称を「医学専攻」(Graduate School of Medicine)とし、学位に付与する専攻分野も「医学」とします。

また、入学する学生は、入学時点で、高度医学研究者コースと専門医研究者コースのいずれかを選択します。

高度医学研究者コース ▶ 医学研究者になることを目標とし、将来の医学を支え、新たな医学の創造ができるような人材の育成を目的とします。
また、「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プランに基づく「腫瘍専門医養成コース」を包括しています。

専門医研究者コース ▶ 臨床研修を終え、専門医研修を受ける学生を主な対象として、高度で専門的な臨床能力と、医療の現場から研究する能力を兼ね備えた臨床医を育成することを目的とし、そのために必要な科目を整備しています。
また、「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プランに基づく「腫瘍専門医養成コース」を包括しています。

福島で研修しませんか？

患者さんに寄り添う家庭医を目指して

私は今年度より、当院の総合診療専門研修プログラムで専門研修を行っています。総合診療医・家庭医療専門医を志す理由は、患者さんとそのご家族の健康の窓口となり、持ち寄られる大小様々な問題に対して正しく応え、ともに解決策を考えながら歩める存在になりたいと考えているからです。

本プログラムでは、県内各地にある魅力的な関連施設で、充実した指導体制のもと実践的な研修を積むことができます。今年度は大原総合病院で研修しており、誤嚥性肺炎などのcommon diseaseから、不明熱・体重減少といった症候まで、経験する症例は多岐にわたります。感染症診療ではGram染色(写真)で判断材料を自分たちで集め抗菌薬の選択や治療期間を検討するなど基礎から学んでいます。また複雑な症例では症候毎に鑑別を挙げ、診察と検査を組立て病態の解像度を上げてゆくなど、診断・治療に繋げる過程に大きなやりがいを感じています。さらに、患者さんを取り巻く社会的・心理的課題に対して、指導医や経験豊富なコメディカルの方々と協力しながら解決策を模索するなど、日常診療の一

つひとつが成長に繋がっています。

さらに、臨床経験だけでなく、家庭医療の実践に必要な理論を体系的に学べる機会が組み込まれていることも、本プログラムの大きな魅力です。家庭医療学の理論や技術について教科書を紐解きながら理解を深める週1回のオンライン勉強会、ポートフォリオ(研修の記録と成果を紡いだレポート)について意見交換する相談会など、定期的な学習の場が整っています。講座内の縦横のつながりも強く、同じ目標を持つ仲間とともに学べる環境はとても心強いです。

専門研修が始まったばかりで右も左もわからず大変な時もありますが、素晴らしい同期や先輩、指導医の先生方に支えられながら日々充実した研修を送っています。総合診療に関心のある方は是非、当プログラムに興味を持っていただけたら嬉しいです。

専攻医1年次(総合診療) 柳下 凜



専門医制度について

当院は、基本領域の全19領域及び、サブスペシャルティ領域のプログラムにおいて、基幹施設としての役割を果たし、卓越した教育環境と最先端の医療技術を提供しています。各領域の専門家による指導のもと、豊富な実践経験を通じて、次世代の医療従事者の育成に力を注いでいます。また、専攻医一人ひとりの成長を支えるため、充実したサポート体制を整えており、安心して研鑽を積むことができる環境が整っています。

※下記のサブスペシャルティ領域の専門医は、日本専門医機構が現時点で認定および公表している32領域に含まれるものです。

【サブスペシャルティ領域】〈3年間〉

※最大2年間は基本領域と重複可

- 消化器病専門医 ●循環器専門医 ●呼吸器専門医 ●血液専門医 ●内分泌代謝科専門医 ●糖尿病専門医
- 腎臓専門医 ●肝臓専門医 ●アレルギー専門医 ●感染症専門医 ●老年科専門医 ●神経内科専門医
- リウマチ専門医 ●消化器内視鏡専門医 ●がん薬物療法専門医 ●消化器外科専門医 ●呼吸器外科専門医
- 心臓血管外科専門医 ●小児外科専門医 ●乳腺専門医 ●内分泌外科専門医 ●放射線診断専門医
- 放射線治療専門医 ●脊椎脊髄外科専門医 ●IVR専門医 ●集中治療科専門医 ●小児循環器専門医
- 小児神経専門医 ●婦人科腫瘍専門医 ●手外科専門医

【基本領域（19領域）】〈3～5年間〉

詳しくはこちら

- 内科 ●小児科 ●皮膚科 ●精神科 ●外科 ●整形外科 ●産婦人科 ●眼科 ●耳鼻咽喉科
- 泌尿器科 ●脳神経外科 ●放射線科 ●麻酔科 ●病理 ●臨床検査 ●救急科 ●形成外科
- リハビリテーション科 ●総合診療



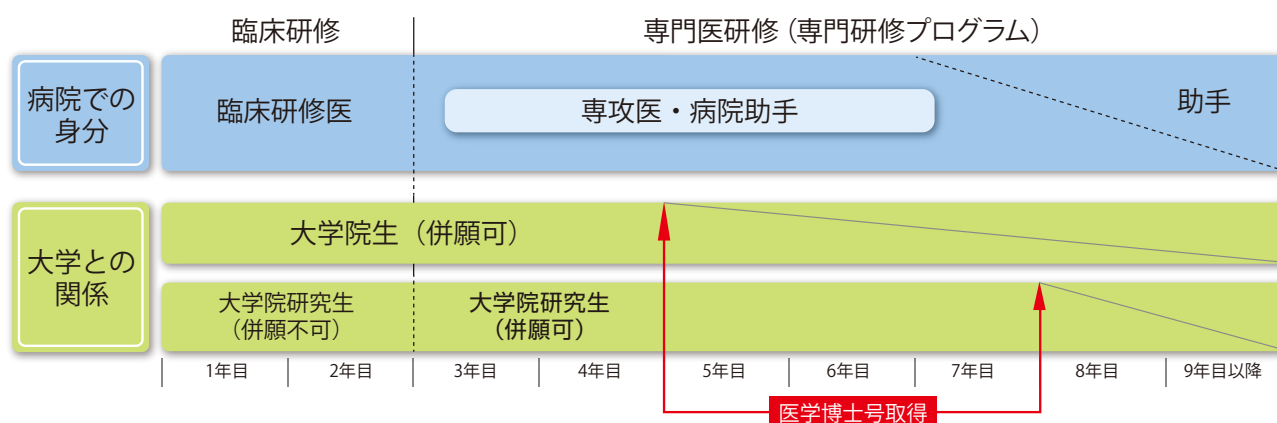
【臨床研修】〈2年間〉

【サブスペシャルティ連動の専門医研修】

卒後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
標準タイプ			基本領域専門医研修			サブスペシャルティ専門医研修			
サブスペシャルティ連動(重点)タイプ			基本領域専門医研修	サブスペシャルティ専門医研修					
			基本領域専門医研修						
					サブスペシャルティ専門医研修				

基本領域と
サブスペシャルティの連動

当院の研修制度の全体像



令和9年度 専門研修プログラムの募集について

1 応募資格

(1) 医師

医師法第16条の2第1項の規定による2年間の臨床研修を修了または令和8年度末までに修了見込みである者

(2) 歯科医師

歯科医師法第16条の2第1項に規定する1年間の臨床研修を含め、2年間の歯科医師臨床研修を修了または令和8年度末までに修了見込みである者

2 募集人員・研修期間

各基本領域の専門研修プログラムが定める採用枠及び期間とします。原則として令和9年4月1日から研修を開始し、研修期間のうち1年以上は当院で研修を行います。

3 専攻医登録

日本専門医機構が定める期間内に、日本専門医機構ホームページの「専攻医登録」または専門研修希望領域(学会)のホームページからJMSB Online System+にアクセスし、専攻医登録と希望するプログラムへの応募を必ず行ってください。

4 専門研修プログラムの選択

下記基本領域一覧から希望するプログラムを選択し、願書に記入してください。

基本領域一覧

内科、小児科、皮膚科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、形成外科、リハビリテーション科、総合診療

各プログラムの内容は、当院臨床研修・専門医研修のホームページを参照してください。
https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/training_program/



5 応募

(1) 書類提出期間

令和8年9月1日(火)から令和9年1月下旬(予定)まで

※締切は、日本専門医機構が定める専攻医募集スケジュールに基づき決定します。

(2) 提出書類

次の書類を、提出先へ郵送(配達状況を追跡できる方法での送付を推奨)またはご持参ください。

ア 令和9年度福島県立医科大学附属病院専門研修プログラム願書(様式1・A4サイズ)

イ 履歴書(様式2・A4サイズ)

※上半身写真、縦4×横3cm、無帽、正面向き、3か月以内に撮影したものを貼付

ウ 医師免許証又は歯科医師免許証の写し(A4サイズに縮小し、白黒で印刷すること)

※当院臨床研修プログラムを修了見込みの方は提出不要。

【注意事項】

- ① 願書の氏名、生年月日は戸籍のとおり正確に記載してください。
- ② 押印もれがないようにしてください。
- ③ 願書に記入した内容について、書類を提出した年度末までに変更があった場合、ただちにご連絡ください。

願書・履歴書様式のダウンロード

https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/training_program/system/



6 選考方法

- (1) 各プログラム責任者等が選考面接等を行い、各プログラム研修管理委員会の審議を経て合否が判定されます。
- (2) 選考結果は、JMSB Online System+を通じて本人宛に通知されます。

7 処遇

当院で非常勤の専攻医として勤務する場合(参考:令和8年度)

- ① 身分: 専攻医
- ② 職務: 病院における診療業務の他に、臨床研修医の指導補助
- ③ 勤務日数: 月17日以内
- ④ 給与: 月額15,400円、通勤手当、超過勤務手当、宿日直手当、期末手当及び勤勉手当、その他各種業務手当
- ⑤ 有給休暇: 10日間(1年目)
- ⑥ 各種保険

※連携施設での身分、給与等は、各施設が定めるところによります。

病院見学

見学申込を随時受け付けています。
県外臨床研修病院に勤務している臨床研修医を対象に旅費を助成しています。



<https://www.fmu.ac.jp/home/knsh/visit/>

提出先・お問い合わせ先

公立大学法人福島県立医科大学附属病院 臨床医学教育研修センター

事務担当 安田

〒960-1295 福島市光が丘1番地

電話 024-547-1047(直通) Fax 024-547-1715

メール cmecd@fmu.ac.jp